

第2次鴨川市学校適正規模検討委員会第6回会議概要

- 1 日 時 平成24年10月10日（水） 午後7時から9時7分まで
- 2 場 所 天津小湊支所2階会議室
- 3 出席者
 - (1) 第2次鴨川市学校適正規模検討委員会委員
委員長 鈴木 美一、副委員長 永名 亜由美
大和田 悟史、谷 一浩、高橋 亨、佐川 仁、金高 修治、藪中 隆志、福原 政幸
川股 盛二、粕谷 眞理子、山口 眞一、川上 一之、金井 美鶴、栗本 昭、梶 恵子、
久根崎 克美、森谷 義眞
 - (2) 市出席者
教育長 野田 純、総務・市民福祉担当参事 庄司 政夫、教育次長 蒔苗 茂、
学校教育課長 前田 恵美子、福祉課長 羽田 幸弘、
学校教育課課長補佐 長谷川 幹男、福祉課課長補佐 石井 宏子、
学校教育課総務係長 唐鎌 孝行、学校教育課学校環境整備係長 桐木 勝
 - (3) 教育委員
教育委員長 佐々木 久之
- 4 次 第
 - 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 議 事
 - (1) 江見地区の小学校適正配置及び幼保一元化について
 - (2) 天津小湊地区の小学校適正配置及び幼保一元化について
 - (3) その他
 - 4 閉 会
- 5 会議内容
別紙のとおり
- 6 会議の傍聴者等
傍聴者 6名
報道関係者 なし

1 開 会

(午後7時会議開始)

唐鎌学校教育課総務係長

皆さんこんばんは。本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。
今回から委員に変更がございますので、ご紹介いたします。
天津幼小PTA代表が金高修治さんになります。皆様よろしく願いいたします。
本日は、会議の傍聴を希望される方が6名お見えでございます。これから傍聴者に入場していただきますので、しばらくお待ちください。

(傍聴者入場)

それでは、大変おまたせいたしました。ただ今から、第2次鴨川市学校適正規模検討委員会第6回会議を始めさせていただきます。

本日の出席委員は18名となり、過半数を超えておりますので、本委員会の設置要綱第5条第2項の規定により会議を開催いたします。

次に、会議次第の2になります。野田教育長からご挨拶を申し上げます。

2 教育長あいさつ

野田教育長

皆さん、こんばんは。

委員の皆様には一日のお仕事でお疲れの中、お集まりいただきありがとうございます。私、8月17日に教育長に就任いたしました野田純と申します。よろしく願いいたします。

さて、この検討委員会も6回目となりました。8月に5地区の意見交換会を実施し、今回はその中で出された地域の皆さんのご意見をもとに、今後の方針を定めていくのが今回の会議の主旨でございます。意見交換会以外にも様々なご意見が寄せられています。どの意見も子どもたちの安全と将来を考えた真剣なものでございます。委員の皆様にはこれらのご意見をもとに活発なご協議をお願いいたします。よろしく願いしたいと思っております。

3 議 事

唐鎌学校教育課総務係長

続きまして、会議次第の3、議事に移らせていただきます。

以後の議長は委員長にお願い申し上げます。よろしく願いいたします。

委員長

改めましてこんばんは。よろしく願いします。

それでは、ただ今から議長を務めさせていただきますので、委員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

前回8月1日の会議以降、各地区において意見交換会が行われたわけですが、本日の議事につきましては、各地区意見交換会での意見等の報告を受けまして、これまで検討を行ってきた候補案について、再度検討を行い、地域の声を反映させていきたいと思っております。

また、進行につきましては、お手元の会議次第に沿いまして、議論を進めさせていただきますので、ご了承を願います。

次に、本日の会議録の確認をしていただく委員についてですが、本日は福原委員を指名させていただきますので、よろしく願いいたします。

委員

はい。

委員長

それでは、議事に移らせていただきます。議事1、江見地区の小学校適正配置及び幼保一元化についての検討を行いますが、始めに各地区意見交換会結果等について事務局に報告を

求めます。事務局お願いします。

前田学校教育課長

それでは、私の方から地域の皆様からいただきました意見の概要についてご報告させていただきます。

まず、第4回、第5回会議で江見地区における小学校適正配置検討案につきましては、第4案であります旧江見中施設を改修して、3小学校を統合する。そして、幼保一元化についても第4案の旧江見中敷地内に幼保一体型施設を新築する案を検討委員会の候補案といたしまして、各地区の方々のご意見を伺った上で最終的な決定をするということでしたが、江見地区意見交換会での意見概要は、お手元の資料1のとおりでございます。ご覧いただきたいと思っております。

参加いただきましたのは52名の方でございます。まず小学校の適正配置については、少数ですが反対の意見がありました。その内容といたしましては、「地域が廃れてしまう」、また、「統合するのであれば江見に持ってきてほしい」、「耐震補強をしてほしい」といった意見がありました。そのほか、賛成の意見としましては、「学童保育の可能性が高くなるので、案の4旧江見中施設を活用する案を希望する」との意見もありました。そのほか、統合した場合のバス通学についての質問、保護者の負担や安全面等についてご意見をいただきました。

また、裏のページになりますが、検討案以外の提案として、「江見地区に2箇所の学校、太海地区を2分割し、江見寄りの子どもは江見小学校に、曾呂小寄りの子どもは旧江見中で曾呂小学校と一緒にする案としてはどうか」というようなご意見もいただきました。

そのほか江見地区の幼保一元化につきましては、統合するという点については特に反対という意見はありませんでしたが、設置場所につきましては、「案として江見小学校を希望するがこの場合はいつ実行できるのか」、また「小学校と幼稚園、保育園が別々の学校を使って実施した場合のコストはどうか」というような意見をいただいたところでございます。

続きまして太海地区でございます。資料2をご覧くださいと思います。

参加者は37名で、まず、小学校の適正配置については、「3校同時に合併統合ということで話が進んでいるが、1校だけが反対し2校が賛成の場合にはどのように進めていくのか」、また「16人未満だった場合は必ず複式学級になるのか」といったご質問を頂戴しました。そのほか「長狭地区は統合できたが、この地区ではそうした話が実現できなかったとしたら、こういう世の中であるので、財政的な問題など、例えば3校の耐震をやるとなると膨大な費用がかかることが予想されるが、そういう面から一番経費のかからない方法というものを市の方から強く押し出すしか統合の方法がないのではないかと。皆が好き勝手なことを言っていたら、いつまでもまとまらないだろう」というような意見も頂戴いたしました。

また、このほか旧江見中を改修した場合の費用、江見小と太海小の耐震補強工事をやった場合の費用についての質問がありました。小学校を統合することについては、特に反対の意見はありませんでした。幼保一元化につきましては、第4案旧江見中敷地を利用する案について質問がありました。「この場合敷地のどの辺りを予定しているのか」、「プールは引き続き使用できるのか」といった意見がありました。このほか「第4案旧江見中敷地を使用する案については賛成である」、「バスの乗り入れができるのが大きな利点だと思う」といった意見がございました。そのほか全体を通しての意見として、「金額以外のメリットから考えれば、江見中敷地に設置するという第4案がベストだというふうに見えるし、江見中を使った方が、子どものためになるというのは分かるが、母校が無くなる事についての寂しさ、地域が衰退することが引っかけるといったご意見も頂戴したところです。

続きまして曾呂地区になります。資料の3をご覧くださいと思います。

参加者は36名です。まず、小学校の適正配置についてですが、「統合案ではなく、従来案になった場合、耐震工事はやって貰えるのか」、また「3校そのまま存続させるのと、1校に纏めるのでは、予算でどのくらい違いがあるのか」といったご質問がありました。

また、次ページをご覧くださいと思いますが、統合することについての賛成意見として、「小学校に上がると少ない人数で複式学級になってしまうと聞いているが、複式になると学年単独の勉強ができなくなったり、そういうことが自分の子どもにとってどうか心配に思う。だからできれば統合して欲しいと思っている」といったご意見や、「自分の息子が卒業するまでずっと複式学級になると知りショックを受け、適正な環境で教育を受けさせたい」

といったご意見や、「また、人数が少ないので統合やむなしとは感じているが、実際に統合となった長狭学園の保護者の生の声を聞いてみたい」というご意見もありました。そのほか「統合か現状で良いかということについては、教育の本来あるべき姿を考えていけば自ずと決まってくるのではないか」というようなご意見もありました。

次に、幼保一元化についてでございますが、「江見、太海、曾呂についても2年の幼児教育をして欲しい」といった意見をいただきました。

江見地区についての意見交換会の意見概要については以上でございます。

委員長

ただいま事務局から各地区意見交換会の報告がありました。委員の皆さんも地元の意見交換会には参加され、会場の雰囲気や生の声など感じ取られて来られたかと思います。今回は前回会議までに取りまとめていた候補案について地域の声を反映させるということでございます。

まず江見地区の小学校適正配置について意見を伺いたいと思います。

ご意見ございますでしょうか。できれば江見地区の方どうでしょうか。

委員

私は曾呂の方ですが、曾呂地区で意見交換会に出ましたが、一貫して曾呂地区というのは最初からお話していますけど、合併というものに対して反対というような意見はないです。

ここに出ているような詳細、合併した時の心配な問題点というより、実際のものを見ているわけではありませんので、ほかから聞いているもので心配している点だと思うんですけども、そういうお話が出ました。あと、いくつかこの曾呂地区の意見交換会の概要について、他の地区の方もいらっしゃっていたので、曾呂にあてはまらないような意見が出てしまっているのは、そういう部分で他の地区に出られなかった方が曾呂地区で参加していたという部分で、曾呂地区に当てはまらないような話が出ていると思うんですが、最初から話しているように、意見的にはブレていないと思います。

委員長

ほかにかがででしょうか。では、江見地区の委員いかがででしょうか。

委員

最初にこの反対という意見が出たんですけども、その中で見ていくと前回の第1次の適正規模検討委員会、これに対して反対した人が主だった反対意見を述べているなど。相も変わらずというような感じでした。ほかの人達、52名ということで出ているんですが、あまりにも意見が出ないなど。もっと腹を割って話が出てこないのという感じでしたね。私もオブザーバ一的なものでその場にいたものですから、意見としたらこの場で言おうかなと思っているんですが、そういうものを聞いていますと、やはりまだまだ遠慮しているなど。これは江見の人間の悪い癖なんですけど、その場で言わずに、後でこそこそこそこそと言うんですよ。それで、その話が私のところにも入ってくるんですよ。だからなぜその場で言わなかったんだということ突っぱねているんですけども、反対意見も多々あるなどということは感じています。その1人だけでなくしてね。ほかからも周りからも反対意見が出ているなどというのはあります。

私としたら、今のところ右左ちょっとおかしいんですよ。ブレついているというか。要は3校を1つというのではなくして、2つに分けたいなという気持ちもあるんです。皆さんその意見が強いんですよ。2つに分けたらどうだと。なにも3つを一緒にする必要はないじゃないかという意見が非常に強いものですから、それもそうだなというような気持ちも持っているわけです。

それか一緒に、一気に持って行ってしまえというようなものとね、何とも言えないんですよ、今のところ。まだどういうメリットがあるかデメリットがあるかそのへんを調べて行きたいなと思っています。

委員長

ほかにかがででしょうか。太海地区はどうでしょうか。

委員

小学校が無くなるということにおいては、以前から申し上げていますように地域が一段と衰退に向かうということで、寂しい思いを皆さん感じてはおりますけれども、地理的に見ましても、太海の場合は今の学校もそうですけれども、曾呂小学校と江見小学校の間にありますので、大きな抵抗は今のところ見られないと思っております。少子化問題、諸々の状況を見てやむを得ないという意見だと思います。

委員長

意見のある方どうぞ自由に自分から言っていただけるとありがたいんですが、それでは、曾呂地区はどうでしょうか。

委員

委員もさっき言っていたんですけれども、曾呂には他の地区からもいらっしゃっていたんですよ。他の地区はどうか分からないけど、曾呂の人間はおとなしすぎて、どちらかという意見としてはあまり多くはなかったのかなと思いますけど、ただ統合に関しては別に否定的ではないです。ただ、一部少人数の方が目が行き届くのではないかとという人もいました。途中から他の地区の方の話が多くなって、全部が曾呂地区の意見とは限らない。

委員長

一応、意見交換会の意見を反映させた中で、委員の皆さんがどうお考えになるかということをご意見として述べていただければ非常にありがたいと思うんですけど。意見交換会を参考に、それを踏まえた中で、検討委員会で結論を出していこうという考え方ですので、よろしく願いたいと思います。

あと太海地区はどうでしょうか。

委員

あからさまに反対という意見はなかったと思うんですけど、私の近くの方たちはかなり賛成です、統合に関しては。江見中の跡地にというのもいいんじゃないということはよく聞いています。

でも、このまま行ってもいずれは統合ということになるんだったら、早い段階でどんどん進めて行った方がいいということは聞きました。

委員長

委員としてはどのようにお考えでしょうか。意見として。意見交換会の意見を踏まえた中で、ご自分ではどのようにお考えになるか教えていただければ非常にありがたい。

委員

私もまだ子どもが下にもいるので、少人数の良さもあると思いますが、やはり大人数、中学校に行ったらいやでも大人数になるので、早いうちから慣れさせてあげたいというのもあります。

委員

江見地区の意見交換会に出席しましたが、出席前までは3校の合併に関してはやむを得ないなとは思っていたんですが、この紙の一番下にも書いてあるんですけど、3校が1つになるのではなくて、3校が2つになるという意見を言われた方がいまして、その話をちょっと聞いていたところ、例えば自分の親とかがですね、車を運転できないと。そういう場合の迎えのことを考えたとして、3校を1つではなくて、3校を2つにという考えも若干あるのかなと思ったところです。現段階ですと迷っているところです。

委員

私は、個人的にいわゆるこの前の8月1日、その時の検討委員会で申しましたが、いずれにしても教育的見地、あるいは財政的見地に立てば、やはり全て一緒にして今の中学校跡地が一

番ベターかなという感じをしています。

それは皆、地域、地域の思いというのがあるからそれとのはかりという部分が大きいかなと思いますが、そういう市の財政的見地、あるいは教育的見地に立てばそれは全ていづれ行き着くところに行くと思う、将来的にはね。子どもの数値なんか見る限りね。

だからこのまま行き着くところまでやっていくのか、いわゆる統合へ持っていくのかということになってきますと、やはり第4案にあった提案が一番ベターなのかなと思っております。

委員長

ほかの委員の方がいかがでしょうか。江見地区の方にお伺いしたんですけど、ほかの地区の方で。今日は申し訳ないんですけど、できれば検討委員会としての結論、方向性を出して行きたいと思いますので、今日できれば委員会でこういうことにしようと思いたいと思いますから、すみませんがいろいろ意見を出していただいて、お願いしたいと思いますが、ほかの地区の委員どうでしょうか。

委員

地区外の間人ですから、いろいろな考えなんですけれども、やはり当初は3校一緒はやむ無しかないと思っていましたが、先ほどから何回か出ています江見地区の資料を見ますと、小学校3つを2つに分けるといふこの案も検討に値するのかなと思います。

委員長

ほかにいかがでしょうか。今のところ統合はほぼ統合でいいたろうということですけど、3校を1校にするか、2校にするかというところのご意見が多いようなんですが、基本的に3校を2校にしたときの人数がどういふふうになっているか大体分かりますか。

前田学校教育課長

太海を2つに分けるといふことですか。

委員長

そういうことをおっしゃっているんで、そのへんはまだ考えてないですか。

委員

それ安易に2つに分けるっていふのですか。偏っている場合どうなるのですか。

委員長

地域で分けないといけないですよ。

委員

人数で割るのではなくて、住所割するとかそれで人数を出さないと。今それを考えても無理ではないですか。

委員長

一応単純にね。

委員

単純計算で行くのですか。

委員長

いや、だからそのへんがどうかと思って。

前田学校教育課長

参考までに、平成24年5月1日現在の江見小学校の全校数は67名、太海小学校全校数は67名、そして曾呂小学校が49名という状況でございます。

3地区合わせますと183名ということになります。以上です。

委員長

単純に2で割ると90ということなんですけど、今現在は。それから、委員の方から、単純に分けるっていうのは難しいと。私もそう思います。地域性だとかいろんなことがあって、1つの小学校を2つに分けるとするのは当然子どもたちにも抵抗があるでしょうし、そのへんも考えた中で一応結論を出していただきたいと思うんですが、ほかに意見はどうでしょうか。

委員

補足しますが、単純に2で割ると。2つに割って90、90にすると。例えば仲間同士いますよね。それから住所とかそういうのもあるし、友達同士もあるわけだから、それを2つに割るっていうのは至難の技かもしれない。それをお前の方は江見に行けよ、俺の方はこっちに行くというわけにはいかないのでは。そういうところまで考えてあげないと。

これは案としてね、半分に分けたらどうかという案であって、それはまだ先の話になるのではないですか。今ここで検討する話題でもないし、案としてだから。

委員長

一応、先ほども言いましたけれども、今日の会議で方向性を出したいと思います。

というのは、統合するのか、さっきも出ていましたように3校を1校に統合するのか、いや別の案でこうしたいよという案も今出ていますので、それで今、皆さんに検討していただいているんですけれども。後にしようって言うても、検討委員会で一応方向性は出したいんですよ。進んでいかないものですから。それを後にすると、どんどんどんどん先延ばしということになります。

そういうことも一応考えていただいた上で、大変申し訳ないんですけど、できれば今日方向性を出していただきたいということで考えています。

委員

今まで3校を1つにするか、全部をそのまま残すかということで進めてきたと思うんですけど、ここで今、2つに分けるという話が出てくるとまた変わるのですが、公聴会をやった意味が無くなってしまふ。

委員長

結局、2つに分けるというのは、意見として出ているものですから、この前の意見交換会の意見を踏まえた中で、皆さんで話し合っていたきたい。意見交換会の結果を、文章にもして、皆さんに渡しているわけなので、そういう意見も出ていますので、それは無視するわけにはいかない。そういうことも委員の方からおっしゃっていますので、それは考えていかなければならないと。その中で皆さんがどうしようか、という方向を決めるということですから、それはご理解いただきたいです。以前は出てなかったんで、この場で話し合う必要がないよ、ということではなく、意見交換会でそういう話が出たので、どの方向にいくかということで、最終的には私は多数決でいくしかないなと思っています。色々皆さんで意見を出していただいて、皆さん納得した中で、考えていただきたいなと思います。

今、2校にするか、1校にするかということで、2校にした場合の問題点が意見として出たわけですので、このことでどうでしょうか。

委員

私は立場上、3校それぞれで勤務した経験がありますので、それを踏まえながら、また、今、太海小に勤務しておりますけれども、それぞれの学校がそれぞれに誇りと伝統、歴史を持って歩んでらっしゃるというように思います。その伝統を、何とか地域の中で育てていけたら、そしてまた地域の中で育つような、生きていくようなお子さんを作っていくということで、地域の方がそれぞれがんばってらっしゃると。他の学校も連携しながらやっていくという姿勢で今、臨んでいると思います。

この前の公聴会は、私は太海小しか行ってないんですけども、今、委員さんがお話しされ

たように、大方統合という線で、考え方は進んでいるというように思われます。色んな質問が出ているということは、統合に簡単に賛成ではなくて、色んな心配事があるんだということで、これからますます丁寧に説明していく必要があるなと思います。

また、教育委員会からも説明をお願いしたいというように思います。統合につきましては、私個人的には、確かにそれぞれ小さい学校のままでも、今、職員や地域の皆様で頑張っ、何とかやっていこうということでやっているわけですが、やはりある意味、学校という一つの教育の中身で、やはり限界ってものがあると思います。

今、1学年が2人という学級があって、45分間の授業をどのようにやっていくのかというので、今、職員は奮闘しています。そういった1桁台のお子さんが、太海小は今、2クラスあります。2年後、予測されるのは、4クラスになるだろうというふうになります。そうしますと、今の状況でいくと、1つの複式学級は、どうしても1人の先生で対応しなくてはならないという時代が来ます。それは曾呂小さんも同じようになるだろうと予想されているわけで、今、保護者の方は、ある意味学校を選択されていると思っています。保育園のお子さんがこのまま幼稚園に上がってこられないというのが1つありますし、それぞれ皆さんがお勤めだとか家庭の事情で、地域に住みながら、他の学校を選んでいるということがありまして、単純に数で、振り分ければ良いというふうには思いません。

ですから、例えば3小学校が一緒になりながら、やはり子どもさんがある意味大人数の中で、切磋琢磨して欲しいと。そしてまた教員もそうなんです。大人数を相手にしていた先生と、こういう小さい、小規模な学校で生活していく先生で、いきなり大きい学校に行くと、大変戸惑いが予想されるわけですし、そういう意味では、ある程度若い先生にとっては、もう少し大きい学校へどんどん行ってもらいたいとか思っているわけなんです、可能な限り小規模でも進めて行くってということで、やっているわけです。

今の状況から推移していくと、どうしてもやはり統合したほうが子どもさんにとっては良いのではないかと。地域の中で心配されることは多々あり、重々分かるんですけど、ある意味、いつ統合について、前に進むのかという心配の逆の声もあるわけですし、やはりまとまらないうちには学校としてはどうしても話ができないんですよと説明をしたことがあります。

そんなわけで、1つは結論を急がれるのは確かに大事なことで、それに向けてまた説明というか、心配ごとに対して説明していただけるように、配慮していただければなと、思っているわけです。

委員長

今、人数の少ないクラス、2人、1桁のクラスの学年があるということについて、委員からお話があったわけですが、そういうことを考えた中で、統合という方向を検討していると。

また、この委員会でもそういうふうを検討しているということを理解した中で、話し合いを進めていきたいと思いますがどうですか。

ほかに意見がなければ、結論を出していくという方向にしたいんですけど、もし何か、言っておきたいことがあれば言ってください。

委員

1つ付け足します。太海地区を2分してという案ですけども、確かにそういう案はあってもおかしくないのかもしれないですが、太海地区からすれば、今、そこにいるということでもないですけども、結局教育的にどうなのかということなんです。

それまで子どもさんは太海の中で育って、そしてまた友人関係もありますし、地域の関係もありますし、そういう地域性の中で育っていったお子さんを2つにというのは、やはり太海小の保護者の皆様、子どもさんにとっては、非常に受け入れがたいことではないかと思っています。

委員長

今、貴重なご意見だと私も思うんですけども、2つに分かれないところは良いのですが、分かれるところは特に考えてあげないと、まず私は必要だと思うんですけども、どうでしょうか。委員、先ほど、2校という意見があったんですけども、いかがですかね。

委員

太海地区の意見でも一番上に、例えば1校だけ反対し、2校が賛成していますというような場合は、どういうふうに進めていくのか、という問題が出ていますね。

これに対する回答がどういうものなのか、このへんを少し聞きたいのですが。

蒔苗教育次長

今の意見交換会でのこの質問に対しては、私どもとしては、住民の意見を反映させていくということで、仮にこうなった場合には、このように進めていくという考えでございます。

あくまでも、うちの方としては、検討委員会として、例えば3校ではなく、2校でということで方向性が出ているならば、それを最大限に尊重したい。

委員

これ、江見と太海と両方出たわけね。2つにしたらどうだっていうこと。2つにしたらどうだっていう意見が出てるわけですよ。この2ページ目ですか。江見地区の2箇所の学校としてはどうだっていうことを、太海の1番上に、3校同時合併じゃなくて、1校だけ反対している。2校が賛成しています。江見が反対しました、太海は賛成です、曾呂は賛成です、という場合どうなんだと。さずが出てきたなというような感じを今、受けている。

委員長

太海を2つに分けるということではなく、1校が反対した場合ということですよ。ほかにはいかがですか。

委員

例えば今も出ているけれど、2つに割るとか、2校が賛成で2つ一緒にして、1校だけ残すというなら、それはそれでも結構かもしれないけども、1つの学校を2つに割るっていうのはいかがなものかと。さっきも触れましたけれども、基本的にやるのであれば、これは全部一緒にしなくては、意味がなくなる。

委員長

それについては結局残った1校が、当然人数が将来的に50人切るということで、統合しようという話になっているわけですので、結局残った1校が、今、曾呂小と同じ50人切るという状況になってくるわけなんです、将来的に。そういうことも考えた中で、一応、皆さんにお願いしたいと思うんですけど。

今現在、太海小も曾呂小も複式になるクラスがあるというのも、理解していただきたいと思います。

委員

江見地区の意見交換会で、江見の一番最初にも載っていますけど、江見小は残してもらいたいとか書いてありますが、全体的に統合に賛成の意見が多いのですか。それとも反対意見が多いのですか。どのくらいの比率なのかな、ということを知りたいのですが。

前田学校教育課長

明確な決は取っておりませんが、先ほど区長さんからの意見があつたとおりに、確かに反対とする意見を述べた方もいました。あと、学童保育の可能性があるので、賛成という意見もありました。それ以外の方というのは、どちらかというあまり意思表示がされなかったということで、意思表示がなかったんですが、統合した場合について、こういった点はどうかというような意見はいただきました。明確な意見としては、分かりづらかったかな、という印象でした。

委員

先ほどから地域の声を反映させるという意見が出ていますので、やはり地域の方が皆さん納

得して、統合のことを考えていただければなと思っています。

委員

私は、検討委員会の意見交換会に参加できなかったんですが、各委員の色々なお話、教育的見地、経済的な見地、市の財政とか、色々考えた上で、委員の言うように総合的に考えてみると、これどうしてもいつまでも長いこと、ずっと2校案、1校案、あるいは別々にする、もう1回会議をやると言っていると、結局どンドンどンドン先延ばしになって、今、仮にこの話がまとまったとしても、実行に移せるのは何年後って言われているわけですから、今の小学校にいる子どもたちは、その頃にはもう統合中学に行っているわけであって、いずれにしても決断力と言っては変かもしれないですけど、スピーディにというか、リーダーシップを持ってどこかで決めないことには、話が前に進まないと思うんです。

ですから、子どもたちのことを考えておそらく皆さん、地域のことより子どもたちのことが大事になってくると思うので、今の幼稚園生だとか、保育園の園児たちが今後上に上がったときに、どうなるかっていうことを、まず考えておかないと、地域のことでもそうですけれども、子どもたちがどこでどう勉強できるようになるかという環境を作る。どこかにも書いてありましたけれど、要するに本来の教育のあるべき姿を考えれば、自ずと答えが出ているのではないのでしょうか、という意見もあったので、こういったことを念頭に置けば、答えは1つではないのでしょうか。私は統合が良いという意見です。

委員長

ほかにはいかがでしょうか。これ、全員が同じ考えに当然ならないと思いますので、大変申し訳ないですけども、最終的には多数決で、今日は全員の方が出席されていますので、聞きたいと思います。意見のある方は述べていただきたいと思います。もしなければ、このへんで結論出したいと思うのですが、ほかはどうですか。

委員

私は江見地区の意見交換会に出させていただいて、皆さんのご意見を聞いていたんですが、皆さん色々な表現の仕方はあるんですが、心の中にある基本のところは、子どもたちのための最善な保育環境、教育環境っていうことで、統合するのはやむを得ないのかなっていうのが、少し気持ちの中に皆さんあるような感じがしました。その中で、やはり地域が衰退するとか、学校がなくなったり、保育園がなくなったりすることで、地域がどうなるのかという不安があることでのご意見はたくさんあるかと思いますが、皆さんの気持ちの中には、子どものことを考えて、先に進んだらという意見や気持ちが強いのかなと感じました。

それで私たちも第4案が、ベターではないか、ということの意見を皆さんでまとめたので、その時本当にどうしてそこに至ったのか、そのことの利点とか、もう少しその場で、せっかく皆さんで決めて、皆さんで考えた内容案だったので、そのへんの利点とか色々なものをもっと具体的にそこでお示しできたら、良かったのかなと思っています。個人的には、複雑な心境が地域の方々にはあるかと思いますが、統合していくのが良いのかなと感じました。

委員長

色々な点で心配が今より変化するわけですので、心配することはいっぱいあるはずですよ。

まず、一番皆さんが心配して、私も長狭地区の統合に関わりましたので、スクールバスはどうなんだ、一般の路線バスに乗ったらどうだとか、そういう心配はいっぱいあるはずなんです。現在、長狭学園がちょっと場所は違うんですけど、同じようなことをやってるわけですのでそのへんをある程度見た中で、バスに乗るのが危ないんじゃないか、それはこういうふうにならぬように各バスに先生が乗ってとか、色々な対策を取って、今までの会議の中で、色々説明があったと思いますので、色々なことを踏まえた中で、考えていただきたいと思うんです。

ほかにはいかがですか。

意見が出ないようですよ、採決したいと思います。それでは今出た意見の中で、2つ、統合しないという意見はなかったと思います。1校に統合するか、2校に分けるか、という2つですよ、今、出た意見としては、その2つで採決したいと思うんですけど、よろしいでし

ようか。

それでは1校に統合するということに賛成の方は挙手をお願いします。

委員

(賛成多数)

委員

将来的を考えてね。10年先を考えて。

委員長

では、統合して2校にするという方。

いらっしやいませんね。

それでは1校に統合するという意見が多数でしたので、その方向で進めて行きたいと思えます。場所等については第4案のとおりで、旧江見中の校舎を改修して使う。

委員

すいません。ちょっと良いでしょうか。自分が中学2年の時に、今はもう無くなったけど、統合の江見中が、中学2年の時に一緒になったんです。

中学1年の時は当然曾呂中だったんですけど、入学式は太海中でやって、運動会とか球技大会とかそういうのを、その当時の江見の中学に行き、3校一緒にやったりとかして、要は、統合するけど、その前に色々とその3校で色んなイベントなど、そういうのってやるのですか。自分らの時はそうだったので。

蒔苗教育次長

この3小学校については、修学旅行を一緒に行ったり、合同学習を一緒に行ったりということで、幼稚園も3園が、今2園ですけども、月に1～2回は定期的に交流しています。これは今後も引き続いて続けていきますが、加えて学校長あるいは園長とも相談しながら、もしそうなった場合には、より良い準備期間になるように、そのような交流を更に考えていきたいと思っています。今現在も行われています。

委員長

その心配については、長狭学園が統合した時の色々経験があるのではないですか。それでは開始から55分経過しましたので、休憩したいと思います。午後8時5分まで休憩いたします。

—休憩—

委員長

時間早いのですが、会議を再開したいと思います。引き続き江見地区の幼保一元化について、ご意見を伺いたいと思います。江見地区の幼保一元化についてです。

委員

これすべて含めて、今、第4案で賛成ではないのですか。

委員長

今は小学校だけやりました。幼保一元については、幼保一元ということで、ご意見をいただきたいと思っています。

当委員会の皆様のご意見としては、幼保一元については旧江見中学校のグラウンド、敷地内の入口のほうに一体化施設を造って、統合するというご意見で、進んできたわけですけど、それについて、意見交換会で色んな意見をいただいたので、それを踏まえた中で、再度ここで話し合っていて決めていたいと思いますので、よろしくをお願いします。

委員

私としては、最初のこちらで提案した意見で賛成です。全て一緒のほうがやるのであればね。

委員長

ほかにいかがでしょうか。

委員

私も同じです。

委員長

ほかに意見無いようですので、幼保一元化につきましては、旧江見中学校の敷地に一体化施設を造って統合するという案でよろしいでしょうか。

委員の皆さん

はい。

委員長

では、反対のご意見無いようですので、それで決定させていただきます。

委員

これは細かい送迎やなんかに関しては、後から詰めるということで良いですよ。

委員長

細かい話は全て詰めるということになっています。

委員

方向性だけ、これで行くと。

委員長

次に議事の2、天津小湊地区の小学校適正配置、幼保一元化についてに移らせていただきます。始めに各地区意見交換会の結果について事務局に報告を求めます。

前田学校教育課長

それでは、天津地区意見交換会意見概要について報告させていただきます。まず、第4回及び第5回会議における天津小湊地区におきます小学校の適正配置検討案につきましては、小学校2校を統合し、天津小学校を使用する案を候補案として各地区の皆さんの意見を伺い、最終的な決定をするということでした。

また、幼保一元化につきましては、天津幼稚園を天津小学校に移転し、幼稚園施設に天津保育園を移転させ、分離型の幼保一元化を実施することで、検討委員会の方針を決定したところです。

天津地区意見交換会概要については、資料の4となります。参加者は37名でした。最初に天津保育園の移転について、報告させていただきましたところ、「非常に良いことだと思う、しかし駐車場や道路が心配」との意見をいただきました。また「幼稚園施設を改修して、一体化施設とする案はなかったか」とのご質問をいただき、これまでの経緯を説明させていただきました。次に小学校の適正配置については、天津小学校を使用し、小湊小学校と統合する案について、特に反対意見はありませんでしたが、バス通学の件で、子どもを降ろす場所についての提案や、安全のため始業時間をずらす対策をしたらどうかといったご意見をいただきました。

次に小湊地区の意見交換会の概要については、資料5になります。参加者は54名でした。天津小湊地区の小学校適正配置について地区からの意見としては、統合するというのではなく、小湊小学校を耐震補強し、存続して欲しいという意見がほとんどでした。内容といたしましては、「小湊小学校は決して小さな学校ではない。ここの学校の環境は、幼保一元化、学童

保育全て整い、理想的である」というご意見や「町の人口が増えて、活性化していくためには、買い物、医療、教育等の住みたいと思う条件が揃っている必要がある。学校がなくなると人口減少に拍車を掛けることとなる。また、天津小に統合した場合は、子どもの通学時間が増え、勉強時間が少なくなったり、交通事故その他の危険性ははるかに増える」といったご意見や、「以前、中学校の統合があり、小湊地区としては痛みを味わっているので、地域性を考えて、もう少し時間を掛けて検討していただきたい」といったご意見、また「統合あるなしにかかわらず、危険な校舎なので、まず耐震化を進めて欲しい」というご意見をいただきました。また、統合するのであれば小湊地区にしてほしいというご意見もありました。小湊地区意見交換会の概要については以上でございます。

また、その後小湊幼小PTAの皆様より、地区別意見交換会には出席出来なかった保護者の方も多いため、幼小PTAと保育園の保護者を対象とした意見交換会を持ちたいというご意見があり、9月18日小湊小学校を会場に実施いたしました。その概要については資料6となっております。表題は、「小湊小学校の今後を考える会意見概要」となっております。参加者は保護者の方が21名でした。その中の意見としては、「統合して天津小学校を利用する案となった場合は地震や集中豪雨等で突入トンネルが崩れた場合などの心配があり、そのへんの手段を確立しないことには心配が尽きない。まずは耐震補強工事をやってほしい。また、現在88名いる状況の中で5年後、10年後の小湊小学校についても、10年後のお母さん方や地域の人たちが話し合っ決めていけばいいのではないかと。今必要なのは、子どもたちが安全で安心して過ごせる校舎が必要。また、旧小湊中学校を利用すれば多少の増築をしても、小湊小学校を耐震改修するよりは費用がかからないのではないかと」というご意見もありました。そのご意見として旧小湊中学校を利用する案を検討案として記載させていただいております。また、このほかPTAの方から今回の出席者は20数名の参加であり、出席されていない保護者からもアンケートを取りたいと思うという意見もありました。以上でございます。

委員

9月18日に出席出来なかった保護者と、出席された保護者を対象に幼稚園、保育園、小学校のアンケートを取らせてもらいましたので、その資料の説明をしたいので、資料を配ってもよろしいでしょうか。

委員長

ただ今、委員より資料の配付及び説明の要望がありましたが、議事と関連する内容と思われるので資料を配付してよろしいでしょうか。

異議無いようですので、資料を配付してください。

委員

9月18日に説明会をやりまして、その後保護者にアンケートを取りました。集計の時間の都合もあったので、世帯数と合計の数が合わないのですが、締め切りの関係で出されていない方の意見はそのまま無しということになっています。統合する案と、統合しないで存続する案と、その他でアンケートを取りました。

アンケート結果は統合しないで存続させてほしいという意見が多く、資料6とも似かよってくるのですが、子どもの安全を考えて耐震工事をやって存続させてほしいという意見が多かったことをお伝えしたいと思います。

委員長

このアンケートの結果、色々なことが書いてあるので、すぐには目を通せないと思うんですけども、後ほど目を通していただきたいと思っております。

それともう一点ですね。私のほうから、昨日、鴨川市長宛てに小湊小学校存続を求める会代表、水上淳一郎さんから小湊小学校存続を求める要請書ということで865名の方の署名を添えて提出がありました。それを皆様に報告します。

これがあつたから、ということではなくて、そういうことがありましたので承知をしていただきたいと思っております。では、暫時休憩します。

(休憩)

委員長

休憩前に引き続き会議を開きます。

先ほど説明の中で資料6の3枚目に現状維持案ということで天津小湊地区小学校適正配置検討表の案4で旧小湊中施設を利用する場合というのが、たぶん新しい資料ですので、これについて説明をお願いしたいと思います。

前田学校教育課長

資料の6、天津小湊地区小学校適正配置検討表という資料をご覧いただきたいと思います。保護者会の中で、旧小湊中の施設を活用した方が小湊小施設を活用する場合よりも費用がかからないのではないかというご意見をいただきまして、この検討表を作成いたしました。施設の耐震性等については、旧小湊中学校を活用する場合は校舎、屋内運動場の耐震性はありますが、増築による大規模改修が必要となります。

次に検討項目の2点目、部屋数等については、こちらの方は下の方をご覧になっていただきたいのですが、普通教室が2、特別支援教室1が不足し、増築が必要となります。

また、地理的条件といたしましては小湊地区の海拔は5.7mとなっております。旧小湊中施設は2階建ての建物となっております。また、現在の小湊小施設につきましては3階建てとなっております。そのほかの意見といたしましては、旧小湊中を利用する案では現在音楽室を学童保育室として使用しているため、ここを使うこととなった場合については移転が必要となります。施設規模につきましては、現在の小学校施設よりもかなり小規模となります。

そのほか、現在、旧中学校体育館については社会体育施設小湊スポーツ館として利用されているため、もし、ここを利用するとなった場合は昼間、社会体育施設としての利用が出来なくなるという内容でございます。以上です。

委員長

事務局及び委員から各地区意見交換会やアンケートの結果、地域からの要望書提出について報告がありました。天津小湊地区の幼保一元化につきましては天津地区の幼保一元化が対象になりますが、天津保育園を天津幼稚園に移転し、天津幼稚園を天津小学校校舎内に移転することで検討委員会として方針は固まっております。

また、天津地区の意見交換会でも反対意見はなかったようですので、このまま答申に盛り込むことといたします。

それでは、小学校適正配置について検討を行っていただきたいと思いますが、天津小湊地区は天津小学校に統合する案を統合案として、取りまとめておりましたが、地域の声を反映させるということでございますので、委員の皆様方のご意見をお願いしたいと思います。

委員

参考までに私も地元の人に、色々意見を聞いてみました。小湊の地区社会福祉協議会の委員さんや、民生委員さん、この人たちは会議の後で時間をいただいて、意見交換を行いました。そのほかには、地元のボランティアさんとか、地域の方々には、普通の雑談の中でどう思っているかというのを聞きましたので、参考までに紹介させていただきます。

3分の2ぐらいは、統合に反対、もしくは出来れば残して欲しいって声が多くありました。内容としては、なぜ児童数が少ないといけないのか。学力の面では、塾のことを考えれば少なくとも問題ない。人間関係に力を入れて育てるのであれば、行事を天津小と一緒にするなどの方法を考えて欲しい。ボーイスカウトは地域が違っても違和感なくやっている。土曜スクールを利用するといいいのではないか。その中で人間性が育っていくのではないか。小学校は地域のコミュニティの中心であり、学校が無くなれば活気も無くなるし、若い世代も住まなくなる。登下校する子どもの顔を見ることによって、我がまちの子どもという意識が強くなり、防犯にもつながる。あと、残された幼稚園、保育園が心配です。今は学童も含めて小学校ととてもよい環境にあります。出来ればこのままでいてほしい、ということでまだまだ反対意見がたくさんありました。

そのほかの意見として、だいたい残りの3分の1ぐらいの意見ですが、自分も複式学級で小学校時代を過ごしたので、中学に入ったときは少し萎縮をしてしまった経験がある。たくさんの友達と接することは色々な考えに出会い、競争心も生まれて、子どもの力を引き出すのでいいと思います。でも、統合は反対ではないのですが、なぜ天津小へ行ってしまうのか。理屈としては分かっているんですが、やはり感情がついていかない。仮に天津と統合となった場合、小湊小の空き施設を何らかの形で残してほしい。避難場所にもなっているし、幼保のためにも施設を約束してほしい。あと、天津小に統合した場合、交友関係が広くなり、遊びに行くのも、地元から地区外に行くことが多いのではないかと心配です。交通安全の面でも心配です。道路整備等考えていただけるのでしょうか。実入トンネルの工事が終わってから、統合は考えてもいいのではないかと意見もありました。

どうしても統合しなくてはいけないのなら、保護者と地元の理解を得られるまで話し合いの場を増やしてほしい。自分は統合には反対ですが、現在関わっている保護者、また、これから子育てを始める方の気持ちを優先したいといった意見がありました。

私はこういう意見を聞いて、この委員会で結論を出すのは難しいと思いました。やはり、地域の方々の色々な思いですとか、保護者の方々の意見がありますので、まだこの後継続して協議を進めてほしいと思います。あとはやはり地域の方と、もう少し話し合いを深めて理解を得ていったらいいのではないかなと思います。

委員

私は基本的には、委員と同じです。でも今まで意見は言ったことないです。大変申し訳ないです。

ただ、私小湊小学校のアンケートを見て、45人が統合しないで存続となっていますね。実際22人は回答していません。でもこれを比率で見ますと51%の父兄が反対をしているものを、私は賛成出来ません。

だから、時期尚早で考えていただき、小湊小の耐震をやっていただきたい。それが基本線です。

委員長

ほかの地区の方ご意見どうでしょうか。

委員

私は小湊小学校に2年、天津小学校は3年目で、両方の学校に関わらせていただきまして、先ほど委員もおっしゃっていましたが、それぞれの地区にはそれぞれのPTAや地域の方の思いがあるのは、肌で感じてきています。

委員として出ているのは学校代表ということなので、学校代表としての立場で言いますが、やはり複式学級っていうのは子どもにとって、教育上十分とは言えない。同時に、職員にとってもやはり複式で2学年を持つというのは、やはり学級効果からすれば、通常の1人担任に比べればやはり難しい面があります。ただ、今回の天津と小湊地区の両方の意見を聞いてみて、やはり相当その学校サイドの意見だけではなくて、考えなくてはいけない問題があるということ、ひしひしと感じています。

学校代表として言えば、先ほど言ったとおり、一緒に勉強したいと思いますが、それは基準の置き方や立場もありますので、以上です。

委員

委員が言ったように、今小湊・天津で勉強会をしていますね。それを続けていくことによって、幅が狭まるのではないですか。だからそれだけの時間をいただきたい。

現状子ども同士は仲良くなっていますので、それを皆さんが知らなすぎる。

委員

前々回ぐらいの資料かわからないですけども、天津小湊地区小学校適正規模配置検討表、小湊小のところの案3、統合しないで各小学校を存続させる場合のその他のところに、おっし

やるように耐震がおそらく一番の条件になってくると思うんですが、国庫補助金を活用し、耐震補強工事を平成 27 年度に実施すると、当分の間統合することは厳しくなるって書いてあると思うんです。

この時にもらった生徒の推移数ですか、もう平成 29 年とか平成 28 年、29 年、30 年あたりは、これおそらく統計で見ているから何とも言えないと思うんですけども、その規模になったときに、今度統合するって言った時に、どうなるのか心配です。

委員

一応 P T A の方には、アンケートでも説明していますが、今の段階での統合は時期尚早で、人数が少なくなるのは、致し方ないということで、その時期になったらまたそういう話し合いの場を持ってくださいというような意見もありました。

委員

その時になってこのことが出てくる訳じゃないですか。

その時に、補助金使ったんだから、今統合できません。ということなるのではないですか。

委員

一応、意見交換会を小学校で保護者向けにやった時には、出席した保護者の方たちはその旨は分かってはいるんですけども、出席されなかった保護者に対してはそういう旨を、載せないでアンケートをとったので、出席してない保護者には伝わってないです。

長谷川学校教育課長補佐

小湊小学校の校舎の耐震性がないということで、補強する場合は文部科学省の補助制度がございまして。国の補助は事業費の 2 分の 1 あるいは 3 分の 2 の補助金が来ますが、改修をして、2 年後に仮に統合した場合には、施設整備費として、市が予算化してやっておりますので、その後その建物をどう利用するかによって、一部補助金の返還等が生じます。これはあくまでも補助金であって、この事業費の残りを市が借金してやりますので、そういうものについても、繰り上げ償還等の条件が出てまいります。

しかし、地元のほうで当面存続ということであれば、やはり耐震の問題もございまして、やっていかざるを得ない。それと概ね 10 年というスパンで言っていますが、当然市の起債の償還であれば、過疎計画に載せたとしても、15 年ぐらいの償還期間はありますので、施設整備をした後すぐに統合を検討してくださいといっても、なかなか難しい面は生じます。

委員

要は、そうなった時には廃校、吸収になるのですよ。簡単に言うと。廃校、吸収になったら条件提示も無くなる。それはバスとかそういうのはやってくれるんでしょうが、条件を付けられなくなる。対等って形があるから初めて条件を言える、その違いなんです。

委員

私も天津で生まれてきまして、中学校統合とか色々な問題で話し合いがありました。流れを見ますと、要は天津にしてみれば自分の方が動くわけではない。もし天津が小湊に行くのだったら反対するだろうと、確かにその通りになると思います。

逆にもし自分が小湊であったらどうするかと、やはり行政側の必要な説明事項をきちんと小湊の人に全部説明して、その上でどうされますかと、きちんとすべきだと思うんです。

行政が金が足りないとか、学校の規模が小さいとか、文科省の指導だというだけで、検討委員会をもって、決めてしまうのではなく、やはり住民の方々にきちんと提示して、やったほうがいい、将来の子どものためにもいいだろうと。

今、委員さんが言ったように、追い詰められて、最後になったら廃校ですよという形の状態に持っていったらいけないから、今こうしましよと話し合いを持っているとの言い方もある。もう少し時間をかけてきちんと説明して、どっちが利益か不利益かを提示すべきではないかと思えます。

委員長

誤解があってもいけないので、今委員が言ったことは正しいんですか。私も今そこまで分からない。今まで補助金が出た場合、10年間統合はだめですというようなことを答えられていたと思いますが、それに対するような補足説明はありますか。

委員

いずれにしても、これだけ反対があることが現実ですから、これを無理やり推進していいことはないと思う。だから皆さんがおっしゃるように、今後更なる検討をここでやる必要はないから、移転して皆さんの理解が得られるような方向性に持っていくほかない。まあ、やるとすればだよ。

ただ、究極のことを今、委員が言っていたけども、それもありえるかもしれない。将来的なことはね。ただ、いずれにしても今の段階ではそんな無理やり、ごり押ししても、まとまらないと思う。それはそういう見地に立って、答申ですからあくまでも。

委員

極論で言っていた。まずは分校で、それから廃校ですよ。それは勝浦市の上の方、全部そうです。いきなり廃校って言ったけど、途中には分校があります。

委員長

何か事務局の方で補足説明ないですか。

蒔苗教育次長

分校、廃校の話がありましたけれども、設置者は鴨川市でございまして、設置条例に関わってきます。それを変更しない限りは、人数が少なくなろうとも、例えば天津小学校の分校ですよと、そういう解釈はありません。

今、委員は究極のことを言っておられますが、この小湊小が、80何名います。例えば、50名になった時に、分校かという、そういうことではありません。

手続きを踏めば、あるということを申し上げておきます。

委員

シミュレーションできるように話してもらいたいです。それが、傍聴で来てらっしゃる方々の意見だと思うんです。シミュレーション的に、こうなったらこうなる。こういう法律が適用されてくるとか、こういう数値が出るとか、そういうものをもっと明示してもらいたいです。そのくらいのことを、数字を出して、きちんと説明すれば、分かっていただけ。

では、子ども達のために何をしたらいいんだという話が出来ると思うんです。今の段階の話だったら、行政側からお金がかかる、合併してください、とか一緒になってくださいよとか、そういうふうにしかな聞こえてこない。それでは、感情論の問題が出てくると思います。

やはりシミュレーションで、今後の子ども達のことを考えたら、こういうふうになる可能性がありますよ。人口推移だとか児童数の推移だとかいうのを見た場合に、どういうふうな結果が導かれてくるかということ考えた上で、ではどうあるべきか、ということをお説くような説明書を出してあげた方がいいのではないのでしょうか。

蒔苗教育次長

委員、今日から参加ということで、ありがとうございます。今までに第1回から5回、この会議を経ておりまして、その間に、今お話に出た、児童数の推移であるとか、あるいは地区別の人口等も踏まえたこと、あるいは子どもの教育にとって望ましい教育環境はどうあるべきなのかということも資料を基に、委員の皆様方で話し合っていました。

行政サイドで進めてきたというご意見なんですが、うちの方の話では、基本的にはゼロベースで進めてきました。必要な資料を提示しながら、委員の皆様方のご意見を反映させて、1つの今までの案に集約してきた経緯を辿ってきておるわけでございます。ご理解をいただきたいと思っております。

委員

ですから、我々はいいいんです。こういう資料もらっているから。小湊地区の人に分かりやすい資料で見せてください。

蒔苗教育次長

全部丸ごと同じ資料ではございませんが、今の話に出たようなことは、意見交換会に出席された地域の方々には資料を5地区で全てお渡しをしている。ただそのほかの人達にもというようなことだとすれば、そこまではちょっと配布をしてないということでございます。

委員

言いすぎているのは、865名の方が統合反対ですよという署名をされているということです。これが、その地区全体の何割の方を占めているのかという、相対人数は分かりませんが、要は学校関係だけではない方々も多いかと思しますので。簡単に言えば、1つの地域の中で、平らでない皆さん方ですから、やっぱり想いや、歴史、そこで育ってきたとかがあると思いますので、学校は、象徴ですので、だからやっぱりもっと理解を求めるようなことで、もっと広く皆さん方全体に分かるようにしてもいいのではないかと思います。

委員長

委員には資料がいつているかどうか分かりませんが、小湊小学校は、平成30年度になると58名になるという資料もあって、進んでいますので。市の財政が苦しいから統合するということではないんです。基本的には。それは、理解してもらいたいです。

先ほど、委員からこれだけ反対があって、無理に進めてどうかというご意見をいただいています。これについてどうですか。

委員

今まで色々な委員の方から、お話しがあったとおり、やはり無理に進めていっても、だめなことですし、実質反対の署名をいただいている865名の方の状況をみると、確かに第5回である程度の方針をこの中で決めましたが、別な話になってしまうと思うんです。

そういう動きが地域であったということは、慎重に進めていくということと、今お話しあったとおり、もう少し、この間私の地区でも、説明会時にありましたが、検討表中のこの○△とか、×自体は、ないのですが、みんなに伝わりづらい。だから数字を出していただきたいというようなお話があったんです。ですから実質的な○×とか△でなく、こういう部分がメリット、デメリットというのを出すと、より良く分かってくると思うんです。

今までの話では、ある程度の方針を決めてやってきましたが、今日の話を知ると、やはりこれはもう、意見的なものを、私自身も変えざるを得ないと思っています。

委員

私が思うところは、天津が小湊に行こうが、小湊が天津に統合しようが、しこりは、やはり残したくない。保護者とか地域の方々の中にしこりが残るということは、いずれ、子どもに、それが伝わってしまう。決してそれは良いことではないので、しこりの残らないように、色々皆さんが言っているように、時間をかけて進んで行ったほうが良いと思います。

委員

先ほど言われた800何名。それは、小湊の比率で言うと、概ね45%です。

だけど、小学校の比率は、51%です。半数以上が、時期尚早ということを行っています。私は地元ですが、子どものいる人、卒業した人を考えているのではないんです。現実、その自分の子どもを通わせている親たちが、これだけの意見を持っているということは、貴重ですよ。だから私は言っているんです。

だけど少なからず、今の江見とか太海とか曾呂ですか。そういう意見無いですよね。私も全部聞きに行きましたけれど。

委員

一応小学校の方でも、アンケートを出させてもらったのですが。市の進め方として、小学校と幼稚園の連携とか、そういうのも今後もやっていくのを言っていた中で、小湊小学校を天津に持って行ってしまうと小湊こども園だけが孤立する。自分も子どもを、通わせている身なので、そういう面でもやっぱり不安が一番大きい。

小学校と一緒に避難訓練も、やったりしているんですけど、小学生が保育園・幼稚園生を見ているわけではないですが、大勢の面で避難するのと、そういう小さい子たちだけの避難も、やはり不安がだいぶ大きいと思う。そういうことから、小学校は残してもらいたい。自分の意見でもあるし、保護者の意見もそうだとことです。

委員長

先ほど、委員からの話で小学校から一緒に勉強をしたり、何かそういう活動もしていることがあるわけですね。小湊小と天津小と一緒に何か連携してやったり、色んな事やっている、それを紹介していただいて良いですか。

委員

小湊と天津の大きい交流は、小学生の場合に3回行っています。これは、主に5・6年生ですが、6年生の4教科で、中学校の先生と小学校の先生と一緒に、天津の子と一緒にして、それを半分に、5・6年生をAとBに分けて、それぞれ4教科です。6年生は2教科を交替で、5年生は2教科を交替で、ということと、もう1つは、日常的にですね、年間、学年によっても違うんですけども、小湊と天津の子ども達の校外学習も行っています。

それから加えて、幼稚園と小学生1年生の幼小連携というのを頻繁に行っています。これは、小湊小と天津小との交流以外にも、幼から小への接続、スムーズな接続ということもやっている。先ほどの5・6年生も、中学校でずっとやるのも中学校へのスムーズな接続ということでやっていますが、回数的には今年度はちょっと増やしています。というのは、今年は、来月公開研究会を控えていまして、これまでも交流していたのですが、今年は特に力を入れて交流は、やっています。成果等も、特に実感できるのは、幼と小の連携の成果です。昨年から指定を受けて、昨年と今年の研究指定で、今年公開ですが、昨年の幼稚園生が1年生に入ってきていて、非常にこう、スムーズに小学校生活を送っているんです。ということで中学校も同じような効果あるんですけども、やはり地理的な関係、天津と小湊の関係、あるいは各学校の教育課程の関係で回数は、それほど増やせない。ということです。

加えてもう1点は、現在天津幼稚園には、16名在籍しています。天津保育園の方に、同じ年長児の年齢の子が6名います。その子達は、当然来年度は、天津小学校の1年生で入ってくるので、その子たちも保育園の6名の子と一緒に今、交流学习をやっています。これは小湊ともタイアップして一緒にやっていること、その回数が、やればやっただけ良いんでしょうけども、ほかの学校の計上回数が限られ、今大きくやっているのは3回です。以上です。

委員長

子ども達は、子ども達なりの交流を図っているということも、将来的には、スムーズに行くのかなというところもありますね。どうでしょうか。反対がかなり強いということは、皆さんお感じになっていると思うんですけど、それについて何か。

先ほど、委員からは時期尚早だということで。ただそうなると、耐震補強、大規模改修と体育館も耐震補強をするという状況になると思うんですけど。

蒔苗教育次長

地域の声、保護者の声は、もう本当に大事にしなければいけない。受け止めていることは、間違いありません。皆さんで、結論を出していただきます。

もし、統合しないということであるならば、それは早急に、やはり子どもの命を守るために、耐震工事等を進めていくということになります。

議会の議決が必要なものですから、設計そして工事の予算を要求していく。見通しの中では、遅くても、ということになりますが、平成26年度中には、耐震工事を完了させるというような見通しを持っております。

この結論が出れば、出来るだけ急いで出来る方法を考えて、着手しようと思っています。

委員長

一応この会で早く答申すれば、それだけ進みが早くなるのかなというところで、どっちにするか。できれば、今日ここで皆さん方向性を出したいと思いますので、まだ意見のある方は、言っていたきたいと思います。

委員

今、平成26年には耐震工事ということですが、この生徒数の推移の図見ますと、平成26年から約10年間は、そのままいくようになると思うんですけど、耐震工事をした場合で生徒数の推移を見ると50人ぐらいになると思うんですけど、その辺りはどういう見立てがあるのかをお聞きしたいのですが。

蒔苗教育次長

同じ資料を見ていると思いますが、平成27年度には、今のところ見通しの中では、小湊小学校は69名でございます。平成30年度には、58名ということで、微減傾向が続く。

これが、先ほどの工事終了後10年間見通した時に、どのような見立てがあるのかということの質問だと思いますが、何があるか分かりませんので、今の段階の見通しなんですけども、この微減傾向が続いていくのでないかなと思います。

50人切るかどうかについては、まだ要するに出生してない段階ですから、ここで軽々に、予断を持って言うことは出来ませんが、切るかどうかは別としても、今の状況の中では微減をしていくのかな。しかしながら何があるか分かりませんから、平成28、29年度に急に上がることがあるかもしれませんが、今までの全体の傾向を考えると、数は言えませんが、少しずつ減っていくと、こんな見通しを持っております。

委員

議会の方にその耐震補強の予算を出した時は、どのような反応が出るんでしょうか。そういった話し合いになった時に、それまでの長い見通しを考えた中で、それが却下されるということは、当然あり得るということですか。

委員長

それについて、委員さんがいるので、どうですか。

委員

ここにいて、この状況をわきまえて、そこであえて反対だとは私は出来ません。この状況を踏まえれば。

委員長

私も議員なんですけど、今の状況から行けば、現状88名いるということもありますので、私はたぶん、ほかの議員さん分かりませんが、たぶん良識があると思いますので、そんなに変な方向にはならないと思います。

委員

私は、ここでは議員としての意見を避けているんです。あくまでも一委員として、発言していますので。議員として言うのであれば、もっとあります。言ったら長いです。

委員長

一応、執行部が答えづらいことだから、今議員さんにとということで、意見を求められたので、そういうことにしてください。

委員

今おっしゃったように、現状ってことを考えての決ということ、よろしいことなんですか。要するに、行く先々のことを考えれば、もうここでは複式学級が出ていて、委員のおっしゃ

るように複式学級は先生にとっても現場の声というので、いいのかなというように思いますが、現状、88名という生徒さんのことを一番考えての決ということで、よろしいですか。

委員長

先ほど、蒔苗次長の方からも、将来10年後どうなるか、はっきりわからない。これは、小湊地区の意見交換会で、人口を増やすことも考えていかなければいけない。この場でなく市全体として考える問題だと思います。とりあえず、現状で判断していただいて、行くしかないと思うんです。というのは、もし統合するといった場合には、今でも極端なことを言うと天津小学校に移れる状況、もう器がありますので、移れる状況にある。だから現状で、という判断していただいた方が、私は良いと思いますが、私が、意見言っただけで申し訳ないですけど。

ほかには、どうでしょうか。

委員

例えば、小湊小の施設耐震工事が大体1億円ぐらいかかると聞いたんですけど、小湊中の施設を改修するとなると、どのぐらいの費用が掛かるのですか。

長谷川課長補佐

資料6の第4案ですね。小湊小学校をそのまま耐震した場合と中学校を改修した場合ということで、中学校の方は、耐震性はありますが、部屋が足りないということで、3部屋ほど増築しなければならない。概算ではありますが、1億4千万円ぐらい掛かるだろうという試算です。

委員

工事を仮に小湊中で始めるとしたら、やはり小学校と同じように、平成26年ぐらいの目安になりますか。

長谷川課長補佐

実際、保護者説明会の中では、この第4案につきましては、中学校の耐震性はありますが、増築でだいぶ費用が掛かってくる。そういうことであれば、存続という方向で小学校の現施設を改修した方が、補助制度が充実しておりますので、そちらの方が財政的には優位であるという結果になります。

委員

小湊小施設は、I s値がすごく低いので、保護者がすごく心配していると思うんです。ですから、できれば早くに、この案が通れば早めに進めていただきたいと思います。以上です。

委員長

ほかには、いかがでしょうか。

それでは、ほかにご意見ないようですので、今日当初申しましたように、方向性を出したいと思います。

それでまず、採決したいと思うんですけど。小湊小を天津小に統合する、という案と、現施設を改修して存続させる、この2点で行きたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、統合する案に賛成の方、挙手をお願いします。

委員の皆さん

賛成少数。

委員長

はい、ありがとうございます。

現施設を耐震補強大規模改修して存続させるという案に賛成の方、挙手をお願いします。

委員の皆さん

賛成多数。

委員長

はい、ありがとうございます。

現施設を改修して存続させるという意見の方が多いので、その方向で進めていきたいと思
います。それでよろしいですね。

それでは、天津小湊地区の小学校適正配置については、当委員会の方針として、現施設を大
規模改修・耐震補強するということをご答申案としたいと思いますが、よろしいですね。

委員の皆さん

はい。

委員長

はい、ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます

特にほかになければ、以上で議事の（２）を終わりたいと思いますが、よろしいですか。

委員の皆さん

はい。

委員長

次に議事（３）その他、何かございますか。

前田学校教育課長

では、次回の会議の予定についてですが、次回の会議、第7回会議として11月21日水曜
日は、いかがでしょうか。

委員長

完全に都合悪いって方、いらっしゃいます。あまりみんなが、出られないと。

6人ですか。ちょっと、難しい。

前田学校教育課長

あと、11月19日は、いかがでしょうか。

11月19日、月曜日になりますが。

委員長

19日の方がいいですね。

前田学校教育課長

それでは、次回第7回会議については、11月19日、月曜日を予定させていただきます。

会議内容としましては、ただ今いただきました意見を基に、答申の素案についての検討を
お願いしたいと思います。以上でございます。

委員長

ほかになければ。

4 閉 会

唐鎌係長

皆様、本日は長時間にわたり慎重なご審議をいただきましてありがとうございました。

以上をもちまして本日の会議を終了させていただきます。

(午後9時7分会議終了)

本会議の内容を確認したので、署名する。

平成 25 年 3 月 4 日

会議録署名人 福原 政幸